

鶴見半島及び大島地域の気候

暖かい冬と涼しい夏

この地域の気候の特徴は、冬暖かく夏涼しいことです。鶴見半島は細長く10kmほど豊後水道に突き出しており（図1）、冬も夏も黒潮の大きな影響を受けます。

図2のように、冬は大島沖の海水温は16～17℃で、気温より10℃あまり高くなっています。夜間、内陸地域が厳しく冷え込んでも、この地域の気温はあまり下がりにません。

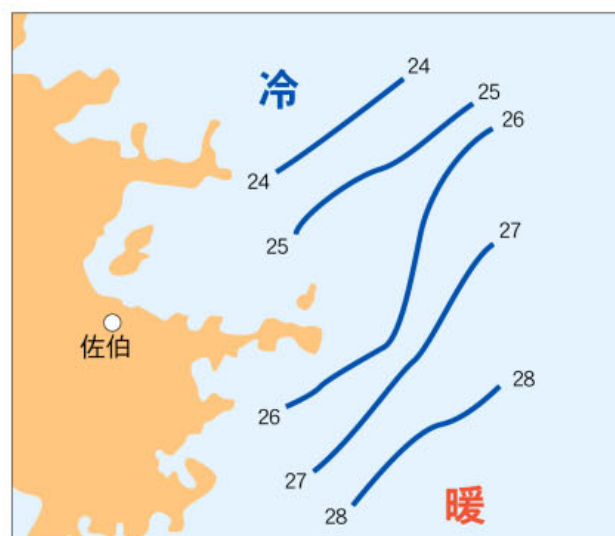
夏になると、大島沖の海水温は25～26℃に上がりますが、内陸の昼間の気温は30℃を超えますから、海水温の方が低いわけです。そこで、この地域では昼間が涼しいのです。



図1 鶴見半島と大島の位置

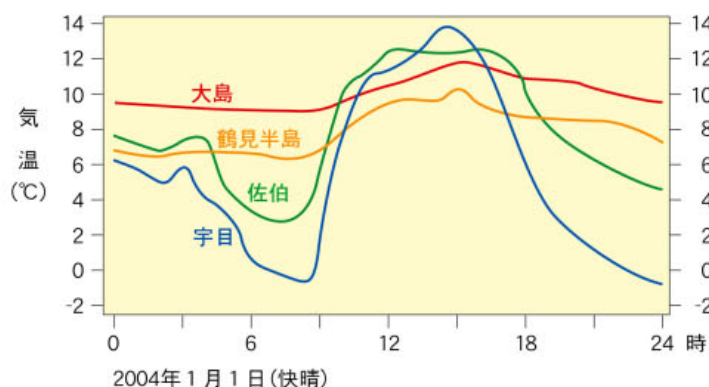


2004年1月



2003年8月

図2 冬（2004年1月）と夏（2003年8月）の海水温（℃）



2004年1月1日（快晴）

図3 快晴の冬の日の気温変化（2004年1月1日）

左の図3は、快晴の冬の日の気温日変化を、鶴見半島・大島地域と佐伯や宇目について比較したものです。この日は、内陸の宇目では夜間の冷え込みが著しくて、氷点下になっていますが、大島では9℃以下には下がらず、鶴見半島でも6℃ほどとなっています。この地域では1日の気温較差は4℃ほどで、内陸地域に比べて、気温の変動が極めて小さくなっています。

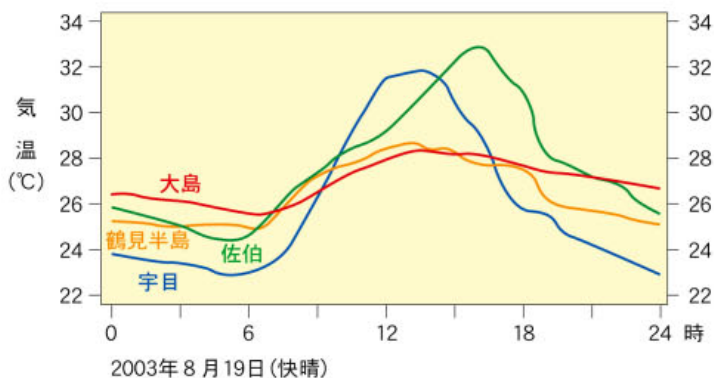


図4 快晴の夏の日の気温変化（2003年8月19日）

降水量の分布

大分県の豊後水道南部地域は、気候区分の上からは太平洋沿岸型とされています。この気候型は、宮崎県から高知県にかけて多雨域として連なっており、その特徴として、夏は南からの季節風によって雨が多く、冬は北からの季節風が遮られて晴天に恵まれています。

図5によると、年平均降水量は大分県の豊後水道沿岸を南下するにつれて増加しますが、等降水量線は南東方向に垂れ下がり、鶴見半島の先端部から大島に向けて減る傾向にあります。

年平均降水量は佐伯で1950ミリほどですが、鶴見半島先端部では1800ミリに減少します。そして大島ではそれよりもさらに少なくなり、島の西部で1700ミリほど、東部では1650ミリぐらいと推定されます。

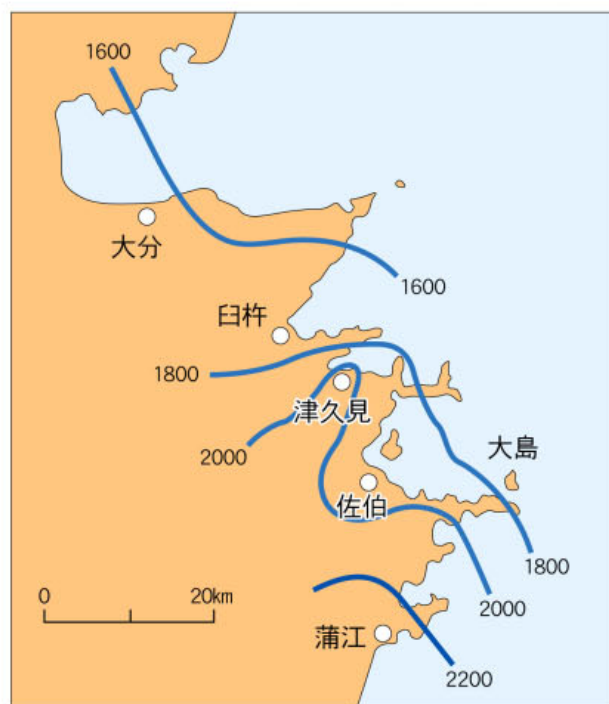


図5 年平均降水量の分布（ミリ）



降水は、空気が上昇し冷却することによって起るわけですが、陸域から海域に向けて降水量が減るのは、海域では地形的および熱的な上昇気流が起りにくいことによると考えられます。

鶴見半島からみた大島